

## 読解力を学ぼう 01

2023.3.16(木)

### 読解力のある人は”賢い”!

概して、数学の成績のよい生徒は、国語の読解力や文法力に長けていると思えます。数学といっても、”ことば”を使って考えるわけですから、「言葉を操る力」のある人は、数学の言葉もまた上手に操って問題を解決することができるのだと思えます。

こういったことは、言葉を使って学ぶすべての教科についても言えることで、その意味において国語はあらゆる教科の基礎・土台であるということがいえます。国語のできる人は、一般に、他の教科の成績もよいのはそのせいなのでしょう。

そういう意味において、どの教科にしる、学び取る力をつけるためには、国語を学ぶことがいかに大切であるかは理解できると思います。

だから、読解学習の目的は、文章を速く、正確に読み取る力(=読解力)を身につけることといえます。

### 読解力が数学の成績を左右する

最近、数学の問題が長くなる傾向にあります。

(最近の共通テストや高校入試の数学の問題を見ると、なるほどと思えます。)

国語の問題ではないかと思えるほど長い問題もあります。

だから、数学の問題を解く前に、何が書いてあるのかを読み取らなければなりません。

問題に与えられた条件から、どのようなデータ(知識)を使って、どのような手順で解答を導くかを推論しなければなりません。この推論ができた段階で”解けた”といえます。

逆に、「解けない」というのは、問題の条件を読み取れない、あるいは関連づけられないということです。

読解力が数学の成績を左右する時代となりつつあります。

### 読解力で小説の世界へ入り込む

小説の世界に入り込むと、自分が”文字を読んでいない”ことに気づくことがあります。

文字が表す情景や登場人物の心理などが直接イメージとして頭の中に入ってくるのです。

この状態に入ると、読むスピードが半端ではなくなります。

文庫なら、1日に2冊くらいは読むという人がおりますが、”さもあらん”ともいえます。

このような能力を手に入れると、小説や随筆の読解問題は、愕然と有利になります。

A4判1枚半の長文(高校入試はこの程度の長さです)問題は、1分程度で読み切ってしまう

す。残りの時間は、問題の分析・解答に使えます。

また、「小説を読む」というのは、他人の生活を疑似体験することであるともいえます。言語を媒介としてある人間の世界に入り込み、“当事者”として振る舞うことになります。速読ができるようになると、文字を意識せずに、直接、登場人物の経験を体験します。小説の設定場面で、登場人物になって考え、ふるまうのです。

このような力が身につくと、テストで小説文を読解する際にも、より速く内容を把握することができるようになります。その小説の中に登場人物として入り込むので、登場人物の心情をダイレクトに感じ取ることができるようになります。（登場人物の心情の読み取りは小説文の”核”となる問題です。）

また、速読力があると、勉強に限らず、短時間により多くの小説を読むことができるようになりますので、これはこれで日々の楽しみとなります。

## 読解力は情報収集力を高める

速読力、正確性があれば、書籍、新聞、レポートなどから、短時間により大量の情報を入手することができるようになります。

この力は、どの教科の学習をするにも有用です。

「情報収集力」は、自分の将来を自分の力で切り開くための有用な”ツール”となります。この力を使うことによって、自分がやりたいことができるようになるということです。

## 読解力は自分を活かすツールである

このように、文章の内容を速く、正確に読み取る力は、受験では当然として、将来にわたって自分を活かす強力なツールとなります。是非、読解を学んで下さい。

今回は、教材を紹介しながら、数専ゼミの読解指導を具体的に説明します。

## 長文の読解に強くなる数専ゼミの国語コース

### 数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: [suusen@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:suusen@seagreen.ocn.ne.jp)